

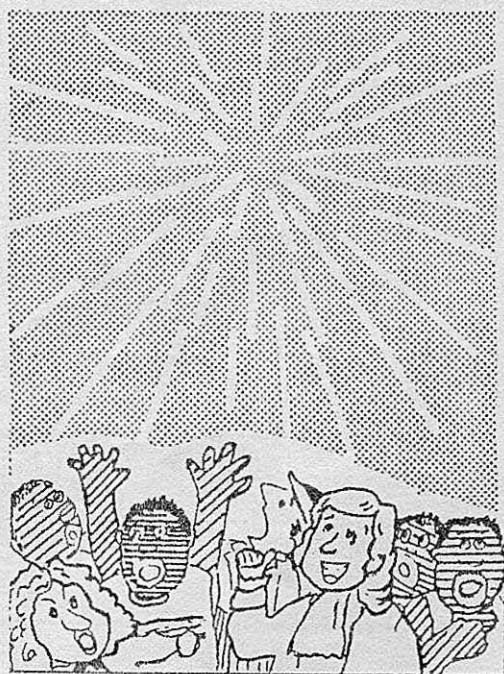
# ★ 星の降る夜 ★

— 流星雨の話 —

（ プ ラ ネ タ リ ウ ム の 話 題 ）

夜空をながめてみると、時々流れ星が見られます。流れ星に願いごとを三回となえればかなうと言われていますが、その暇もなくスーッと消えてしまいます。「流れ星が雨のように流れれば、願いごともかないやすいのに……」と思うのは夢物語でしょうか。そんなことはありません。1833年11月12日、アメリカの人達は空が火事になったかと思うほどのたくさんの流れ星を見ました。ある人は「まるで雪のように星が降ってきた。」と表現しています。その数は1時間に約3万個、それが7時間も続きました。これは流星が雨のように降ることから「流星雨」と呼ばれています。

このようなことは1833年だけでなく1799年、1766年にもありました。いずれも11月のある日に、しし座を中心に放射状に流星が飛びました。ところで、この流星雨の出現した年に注意してみると、あることに気づきます。約33年ごとに流星雨が見られるのです。はたして1833年の33年後の1866年にも見られました。しかし、その33年後の1899年には見られなかったのです。なぜでしょう。



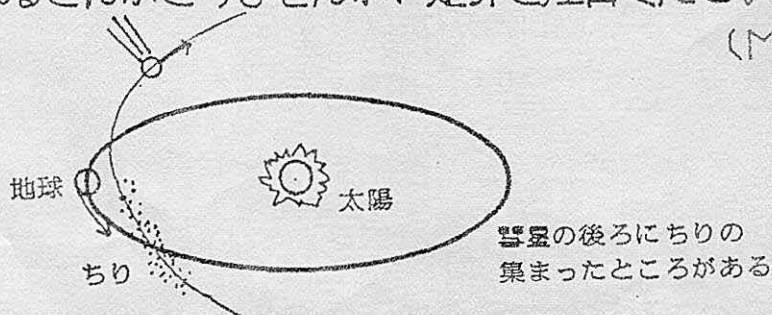
流れ星は直径が1mmから1cmほどのちりのようなものが地球に飛びこみ、大気との摩擦により発光したものです。このちりの起源は、太陽系が生まれた時できたものと、彗星が分解しまき散らしたものとされています。

流星雨は彗星が起源のものです。彗星がまき散らしたちりの中へ地球が通りかかると、流星雨として見えるわけです。1833年の流星雨の場合はテンペル・タートル彗星が起源で、この彗星が33年ごとに地球に近づくので、33年ごとに流星雨が見られるのです。

ただ彗星のまわりのちりはムラがあり、しかも広がっていないので、地球との位置の関係でちりの少ない所を通ることもあります。流星雨が数時間しか続かないことや1899年に流星雨が見られなかったのはそのためです。しかし、1966年にアメリカで1時間に約15万個という流星雨が見られました。

そこで、その約33年後の1998年か1999年にも流星雨が見られることが期待されています。数時間しか続かないので、かならずしも日本で見られるとはかぎりませんが、是非ご注目ください。

(M.W)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和61年3月1日発行